

静岡県環境放射能測定技術会（令和4年度第4回）会議録

1 開催日・場所等

日時	令和5年2月28日（火）10:00～11:30
方法	Web会議
出席者	構成員：加藤危機管理監代理兼危機管理部部長代理ほか15名
議事	<p>議事</p> <p>(1) 浜岡原子力発電所周辺環境放射能調査結果第196号（案）</p> <p>(2) 静岡原子力だより196号（案）</p> <p>(3) 令和5年度浜岡原子力発電所周辺環境放射能測定計画（案）</p> <p>(4) 浜岡原子力発電所周辺環境放射能測定に係る測定法及び評価方法（案）</p> <p>報告</p> <p>(1) 令和4年度第4四半期浜岡原子力発電所周辺環境放射能測定結果速報</p> <p>(2) 浜岡原子力発電所の現況</p>
配布資料	<p>資料1 浜岡原子力発電所周辺環境放射能測定結果報告書 （令和4年10月～12月）（静岡県環境放射線監視センター）</p> <p>資料2 浜岡原子力発電所周辺環境放射能測定結果報告書 （令和4年10月～12月）（中部電力(株)浜岡原子力発電所）</p> <p>資料3 浜岡原子力発電所の運転状況等（中部電力(株)浜岡原子力発電所）</p> <p>資料4 浜岡原子力発電所周辺環境放射能調査結果第196号（案）</p> <p>資料5 静岡原子力だより196号（案）</p> <p>資料6 令和5年度浜岡原子力発電所周辺環境放射能測定計画（案） （静岡県環境放射線監視センター）</p> <p>資料7 浜岡原子力発電所周辺環境放射能測定に係る測定法及び評価方法 （案）（静岡県環境放射線監視センター）</p> <p>資料8 令和4年度第4四半期浜岡原子力発電所周辺環境放射能測定結果速報 （中部電力(株)浜岡原子力発電所） （静岡県環境放射線監視センター）</p> <p>関連資料1 浜岡原子力発電所周辺環境放射能調査解説資料</p> <p>関連資料2 浜岡原子力発電所周辺環境放射能調査結果第195号</p> <p>関連資料3 静岡原子力だより195号</p> <p>中部電力報告資料 浜岡原子力発電所の現況</p>

2 審議事項

(1) 浜岡原子力発電所周辺環境放射能測定結果報告書

(令和4年10月～12月)

(2) 浜岡原子力発電所の運転状況等（中部電力㈱浜岡原子力発電所）

測定機関が、資料1（環境放射線監視センター）、資料2・3（中部電力㈱浜岡原子力発電所）により測定結果を報告した。

<質疑応答>

構 成 員：降下物中のセシウム137の、中部電力と監視センターで11月に採取した試料のデータが違うことについて、説明を受けた。値を見ると、センターが検出した値は0.33、中部電力は検出できなかった。その違いについて、検討した結果を説明いただいたが、0.33はそれなりに検出限界レベルに比べても低い値ではない。試料の取り方を見てもほぼ同じ場所に置いている。最終的な測定試料の交換など行って違いを検討しているが、機器の違いは無かったということで、未だに原因は特定できていない状態かと思うが、恐らく機器にかける試料を調製する際は、集めた水盤中の水、それから沈んでいるダストを全部かき出して蒸発乾固して測定試料にするのではないかと思うが、その調製法に違いはないのか。しかしながら、違いが出た段階での違いは後で検証しようがない。水盤から取り出した水を蒸発乾固、そして測定試料に調製する、その間での違いは、どういう風に評価したら良いか。その間でもって、何か調製法に違いがあったのではないかと想像するが、いかがか。

池新田の指標生物の松葉だが、高木化に伴って試料の採取ができなかったことになる。今後、池新田で松の葉の試料採取するのか。高木化の状態は、今後ともそういう状況であるだろうから、来年以降、指標生物のサンプリングは行うのか。

監視センター：1つ目の、蒸発乾固による調製の違いということでは理解しているが、これに関しては、技術会の調製方法等に記載しているとおりで、中部電力と同じ方法でやっていると考えている。調製による違いによる評価ということだが、中部電力の降下物試料の最終段階の測定重量と県の測定重量だが、県が4.09グラムであって、中部電力の試料は2グラム程度である。また、過去の測定試料の調製後の重量に関しても、0.何グラムから4.何グラムの幅であったので、調製に関する違いによって今回の上限逸脱が生じたものではないと考えている。

2つ目の、池新田松葉の来年度以降どうするのかについてだが、今回の第3四半期についても、池新田の採取していた松のところに確認に行った。現状どうなっているかと、周辺地域に、池新田に、松があるかを確認をしたところ、昨年度及び今年度に松が新たに植えられているということで、その松が生育が5年程度で2メートルを超えるような感じにな

るので、あと3年後とかには採取が可能になるのではと考えている。また、採取を前回と今回を中止したところ、下枝の方が少しだけ枝が伸び始めているので、そこからまた採取が可能になる可能性もあるのではないかと考えている。

構 成 員：降下物の試料重量は倍ほど違ったという理解で良いか。

また、池新田の松の葉だが、一般的に松の葉が枝についているのは2年だが、2年葉を集めるルールがあったと思うが、適した試料だけを集めることが来年は必ずしもできるとは限らない。松の葉の年齢をどのように考えているか説明してほしい。

監視センター：試料の重量が倍程度違ったことはそのとおり。今までの過去の試料からすると、各測定機関で差はあるが、差の中に4グラム程度というような差の中には入っている。最終であったり、県の水盤の配置状況だが、毎回風が少し強く当たるのではないかとということがあり、参考資料に載せた上限超過の時にも、県が高めに出ているということで、これが近傍で工事が行われていて土壌が入ったということだが、このときも県の方が、全体の量が20グラムで、センターと中部電力と比べて10グラム程度量も違った。県の方が風で運ばれた土壌が入りやすい位置にあるのではと考えている。

松葉は、2年葉を取ることが記載されており、2年葉を取るために今までは高木化したところの松を取っていたが今年度は取れなくなった。来年度以降どう考えているのかについては、今後検討していきたいと思う。

(3) 浜岡原子力発電所周辺環境放射能調査結果第196号（案）

事務局が、資料4により、浜岡原子力発電所周辺環境放射能調査結果第196号（案）を説明した。

<質疑応答>

構 成 員：松葉について、測定することになっているものが入っていないので、今後どうするかを報告書に何か一言入れておいた方がよいと思う。

監視センター：松葉に関しては、表の注釈で、松の高木化により未採取としたことについては記載をした。今後のことについては検討中の部分があるので、このような事実のみの記載にしたいがよろしいか。

構 成 員：今ひとつ測るべきものがないものについての回答としては、若干サイエンティフィックではない気がする。高木化は、当然のことながら見ていけば段々高木化していくのはわかるので、計画的に進めるべきものでもあるかと思うし、今後の対応についての何らかのコメントはあった方がよいように思うが、それに関しては、ここでの意見に従いたい。

事 務 局：調査結果自身にコメントを入れるのが良いか、例えば今後の測定計画に何らかの検討をした上で入れた方が良いかを、事務局で検討して対応させていただきたいと思う。

<審議結果>承認。

(4) 静岡原子力だより 196 号 (案)

事務局 (原子力安全対策課) が、資料 5 により、静岡原子力だより 196 号 (案) を説明した。

<質疑応答>なし。

<審議結果>承認。

(5) 令和 5 年度浜岡原子力発電所周辺環境放射能測定計画 (案)

(6) 浜岡原子力発電所周辺環境放射能測定に係る測定法及び評価方法 (案)

環境放射線監視センターが、資料 6 により、令和 5 年度浜岡原子力発電所周辺環境放射能測定計画 (案) を、資料 7 により、浜岡原子力発電所周辺環境放射能測定に係る測定法及び評価方法 (案) を、説明した。

<質疑応答>なし。

<審議結果>承認。

3 報告

(1) 令和4年度第4四半期浜岡原子力発電所周辺環境放射能測定結果速報

中部電力株が、資料8により、令和4年度第4四半期浜岡原子力発電所周辺環境放射能測定結果速報について説明した。

<質疑応答>なし。

(2) 浜岡原子力発電所の現況

中部電力株が、中部電力報告資料により、浜岡原子力発電所の現況について説明した。

<質疑応答>なし。

以上